

神奈川県保健医療計画 進捗状況評価調書

＜項目＞

第7章 保健・医療・福祉をつなぐしくみづくりの推進

第1節 高齢者対策

とりまとめ担当課：福祉こども未来局福祉部高齢福祉課

1 課題に対するこれまでの取組実績

(1) 地域包括ケアの推進	<ul style="list-style-type: none"> → 地域包括支援センターにおいて、高齢者に関する総合相談支援を実施 (H29：695,011件) → 地域包括ケア会議を開催 〔全県域 H29: 2回、H25からの累計：10回 保健福祉事務所圏域 H29:10回、H25からの累計：54回〕 → 多職種間の円滑な連携を支援する専門職を派遣 (市町村等 H29:50人、H25からの累計：147人) → 地域支援事業の「在宅医療・介護連携推進事業」を円滑に推進することを目的に市町村等担当者への研修会を開催 (H27～。H29: 1回、H27からの累計：3回) → 地域包括支援センター職員研修を実施 〔初任者 H29：131人、H25からの累計：437人 現任者 H29：145人、H25からの累計：592人〕 → 終末期の在宅医療・介護における多職種の連携についての研修会を開催 (H29年度～) (H29参加者数：第1回193人 第2回89人)
(2) 総合的な認知症対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> → 認知症サポーターを養成(3月末現在累計：536,092人、H25～H29増加数：363,890人) → サポーター養成における取組みとして、企業や団体に対する出前講座を開催 (H29:41回、H25からの累計：248回) → かかりつけ医認知症対応力向上研修、認知症サポート医養成研修及び病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修を実施 〔修了者：かかりつけ医 累計2,356人、H25～H29増加数：491人 サポート医 累計252人、H25～H29増加数：135人 病院勤務の医療従事者 H26～累計3,447人、H25～H29の増加数：3,447人〕 → 認知症疾患医療センターを設置(累計12か所、H25～H29の設置数：6か所) → 認知症に関する情報共有ツール「よりそいノート」を作成 (H25からの累計48,000部)
(3) 介護を予防するための取組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> → 市町村による介護予防事業及び介護事業者による介護予防サービスを実施

<p>→ 介護予防・認知症予防支援事業を実施し、認知症のリスクを軽減するための運動「コグニサイズ」を全市町村で展開するとともに、市町村職員、民間事業者等に対して指導者養成研修会を実施</p> <p>→ 介護予防従事者研修を実施（H29:修了者 346 人、H25 からの累計 2,422 人）</p> <p>→ リハビリテーション専門職等介護予防指導研修事業を実施（H27～。受講者 H29:76 名、H27 からの累計：319 名）</p>
（４）サービス提供基盤の整備
<p>→ 15 市町において定期巡回・随時対応型訪問介護看護の事業所を指定</p> <p>→ 特別養護老人ホームなどの介護保険施設を整備（特養：累計 36,549 床、H25～H29 増加数：5,813 床）</p>
（５）高齢者救急
第 1 部第 1 章第 1 節 総合的な救急医療 参照
（６）在宅医療（再掲）
第 2 部第 1 章第 6 節 在宅医療 参照

2 参考指標の推移

取組 区分	指標 区分	指標名	単位	神奈川県					備考
				H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	

3 課題ごとの進捗状況の評価

（１）地域包括ケアの推進

評価	A ・ B ・ C ・ D
評価分析	<p>・ 地域包括支援センターにおいては、総合相談支援などを着実に実施した。また、地域課題の検討等を行う、地域ケア会議の開催回数も増加している。</p> <p>・ 県は、地域包括ケア会議の開催や専門職の派遣、研修会の実施などにより市町村を支援し、地域包括ケアの推進を図った。</p>
評価理由	<p>地域包括支援センターにおける取組みに加え、多職種による連携・協働に関する支援など、県による市町村支援の体制が整い、比較的順調に進捗している。</p>
第 7 次計画 (H30～H35) での取組の 方向性	<p>P125</p> <p>地域包括支援センターによるネットワークの構築、医療と介護の連携の推進を位置付けた。</p>

(2) 総合的な認知症対策の推進

評価	A ・ (B) ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーターの養成や各種研修の実施などにより、認知症に関する理解の普及促進を図った。 ・ 認知症初期集中支援チーム員研修や認知症サポート医養成研修への受講者派遣等により、市町村の事業実施のための支援を図った。 ・ 認知症疾患医療センターはすべての2次医療圏域に設置し、若年性認知症支援コーディネーターを新たに配置することで、認知症の人や家族の支援への強化を図った。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村、地域包括支援センター職員等の認知症初期集中支援チーム員研修への派遣や、認知症サポート医養成研修受講者の増加により、認知症に関する医療と介護の連携が進むなど、比較的順調に進捗している。 ・ 認知症初期集中支援推進事業の実施市町村は平成29年度には新たに4市5町で実施され、順調に推進している。 ・ 認知症疾患医療センターの設置、若年性認知症支援コーディネーターの配置で、今まで十分な支援がなかった若年性認知症の方への強化が進んだ。
第7次計画 (H30～H35) での取組の 方向性	<p>P125</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「認知症の人にやさしい地域づくり」として、認知症への理解を深めるための普及啓発や相談体制の充実、認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供に向けた人材養成等を位置付けた。

(3) 介護を予防するための取組みの推進

評価	A ・ (B) ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村による介護予防事業の取組みを支援するとともに、介護事業者による介護予防サービスも着実に実施された。 ・ 認知症のリスクを軽減するための運動「コグニサイズ」の実施について、市町村や民間事業者等に協力の働きかけを行い、市町村事業、民間事業者や自主グループによる教室など数多く行われた。 ・ 介護予防従事者研修の受講生の市町村での活用が進んでいる。 ・ 市町村事業である「地域リハビリテーション活動支援事業」の円滑な実施を支援するために実施したリハビリテーション専門職等介護予防指導研修事業の累計養成数はほぼ予定どおりであった。
評価理由	<p>地域における介護予防の取組みは定着しつつあり、比較的順調に進捗している。</p>
第7次計画 (H30～H35) での取組の 方向性	<p>P125～126</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域的な観点から介護予防を推進するため、人材の養成などの市町村支援の実施や、フレイル対策等に取り組むことを位置付けた。

(4) サービス提供基盤の整備

評価	A ・ (B) ・ C ・ D
評価分析	特別養護老人ホームなどの介護保険施設が整備され、また、定期巡回・随時対応型訪問介護看護などの新しい介護保険サービスも徐々に導入されている。
評価理由	特別養護老人ホームの整備が概ね予定どおりに進捗するなど、比較的順調に進捗している。
第7次計画 (H30～H35) での取組の 方向性	P126 ・特別養護老人ホーム等の介護保険施設の整備を促進するとともに、医療的な対応が必要な高齢者の受入への支援や、在宅と入所の計画的な相互利用の促進、施設系及び居住系サービスの適切な整備の推進を位置付けた。

(5) 高齢者救急（再掲）

評価	A ・ (B) ・ C ・ D
評価分析	第1章第1節 総合的な救急医療 参照
評価理由	同上
第7次計画 (H30～H35) での取組の 方向性	同上

(6) 在宅医療（再掲）

評価	A ・ (B) ・ C ・ D
評価分析	第2部第1章第6節在宅医療 参照
評価理由	同上
第7次計画 (H30～H35) での取組の 方向性	同上

4 総合評価

評価	評価理由
B	<p>認知症疾患医療センターをすべての2次医療圏域に設置し、若年性認知症支援コーディネーターを新たに配置した。</p> <p>地域包括ケア会議の開催や認知症サポート医の養成など、各課題に対する取組みは比較的順調に進捗している。</p>